



さかな じゆう 魚をなぜ自由にとってはいけないの

さかな 魚がいなくなってしまうから

あなたはつりが好きですか。あなたもおうちの方やお友だちと、つりに行ったことがありますか。日本では、つりはとても人気のあるスポーツで、多くの人たちが、川や湖や海でつりを楽しんでいます。日本で、つりをする人は、2000万人もいるといわれています。これだけの人数の人たちが、好き勝手につりをすると、魚がたちまちいなくなってしまうのです。ですから、川や湖では、禁漁期(つりをしてはいけない期間)を設け、魚を保護しているのです。川つりではアユつりが人気がありますが、アユは6月ごろから10月ごろまでの間しかつってはいけないなどの、決まりがあります。

また、海や川には、漁業権というのがあって、権利のある人しか魚をとることが認められないところがあります。その海や川では、ふつうの人は魚をとってはいけないのです。漁業権は、都道府県知事から免許を受けて、手に入れます。

せかい うみ じゆう さかな 世界の海でも自由に魚はとれない

日本人は、たくさん魚を食べる国民です。日本の近海だけでは間に合わず、遠くアメリカ・アフリカ・オーストラリア近海まで魚をとりに行っています。これに対して、今の世界の情勢は、さまざまな制限を設けて、日本の漁業を制限する方向に動いています。例えば、禁漁期を設けたり、魚をとる量を制限したりしているのです。

魚をとれるだけとってしまい、魚がいなくなってしまうことをさげ、限りのある漁業資源を有効に利用しようという考えがあるからです。(監修・保岡 孝之)

